

ISSN 1881 - 980X

一般社団法人日本科学教育学会
Japan Society for Science Education
発行：中山 迅
事務局：中西印刷株式会社 学会部内
URL：<http://www.jsse.jp>

2015.4.15

NO.222

科学教育研究レター



目 次

- | | | | |
|-----------------------|---------|----------------------|---------|
| ■ 理事会だより | ……………2 | ■ 国際交流委員会だより | ……………14 |
| 第 265 回理事会報告 (案) | | 国際学会開催情報 | |
| ■ 年会 | ……………5 | 国際学会参加報告 (22) | |
| 第 39 回年会開催案内 (第 4 次) | | ■ 若手活性化委員会だより | ……………17 |
| ■ 調査研究・学術交流 | ……………10 | 若手ワークショップ・懇親会 開催 | |
| 教科「理科」関連学会協議会 (CSERS) | | のお知らせ | |
| 第 20 回シンポジウムのお知らせ | | 若手活性化委員会広報用 Facebook | |
| ■ 研究会・支部だより | ……………11 | 運用開始 | |
| 2014 年度研究会開催のお知らせ | | ■ 編集委員会だより | ……………19 |
| | | 2014 年度第 2 回編集理事会報告 | |
| | | ■ 広報委員会からのお知らせ | ……………22 |

一般社団法人日本科学教育学会第 265 回理事会報告（案）

下記に第 265 回理事会報告（案）を掲載します。なお、これは議事要録承認前のものであり、要点のみを参考に掲載するものです。

会 場	コクヨ 品川オフィス
出席者	会長 中山 迅 副会長 余田義彦 吉岡亮衛 理事 飯島康之 益子典文 坂谷内勝 村山 功 三宅志穂 鈴木 誠 鈴木栄幸 荻原 彰 千葉和義 日野圭子 加藤久恵 谷塚光典 監事 片平克弘 事務局長 吉川 厚 庶務担当幹事 青山和裕 オブザーバー 久保良宏 久保田善彦 松浦拓也

1. 議事要録（案）の承認

○ 第 264 回理事会議事録（案）を承認した。

2. 第 265 回理事会までの電子会議による審議事項と審議結果を承認した。

○ 事務局からの発議により、11 月 30 日までに入会を希望した 3 名及びシニア会員を申請した 1 件を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された（12 月 8 日）。

○ 事務局からの発議により、12 月 31 日までに入会を希望した 6 名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された（1 月 6 日）。

○ 事務局からの発議により、1 月 31 日までに入会を希望した 4 名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された（2 月 10 日）。

○ 事務局からの発議により、2 月 28 日までに入会を希望した 3 名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された（3 月 12 日）。

3. 報告事項

1) 庶務・事務局

○ 事務局より文書受理（刊行物送付を含む）の報告があった。

2) 経理・会員

○ 2014 年度中間決算について報告があった。

3) 機関誌編集

○ 「科学教育研究」の編集状況について報告があった。

○ 論文執筆要項の規定追加について報告があった。

4) 学会賞

○ なし。

5) 支部・研究会

- これまでの研究会活動について報告があった。
- 第7回以降の研究会の予定について報告があった。
- 来年度の研究会開催日程について2015年6月までに把握したい旨の要望があった。

6) 調査研究・学術交流

○ 5月16日に開催される教科理科関連学会シンポジウムに参加する旨の報告があった。

7) 国際交流

○ 第39回年会でのランチョンミーティングの企画案について報告があった。

8) 年会企画

- 第39回年会についてシンポジウム登壇者が決まった旨の報告があった。
- 年会開催日が例年より早いことに伴い、申込及び論文締切が早い旨の報告があった。

9) 広報・学会IT化

○ なし。

10) 若手活性化

- 学会における若手会員の人数、地域等の現状について報告があった。
- 若手活性化委員会による研究会での発表件数について報告があった。
- ベストプレゼンテーション賞の授与及び研究会ボランティアの採用について報告があった。
- 若手MLを広報委員会サーバに変更する旨の報告があった。
- 若手活性化委員会広報用facebookの運用方針について報告があった。
- 年会時における若手活性化企画（若手ワークショップと懇親会）について報告があった。

11) その他

○ 議事録作成に伴う監事による検印の手続きの仕方について報告があった。

4. 協議事項

1) 退会希望者等について

○ 退会希望者7名のうち6名の退会について承認し、1名は保留とした。

前回理事会：会員数1,388名（正会員1,222名、学生会員135名、名誉会員11名、公共会員2名、賛助会員3名、シニア会員15名）（2014年11月11日付）

2) 学会賞について

1.学会賞表彰規程の改定について提案があり、文言を一部修正するというので改定案を承認した。

(1) 功労賞の新設（推薦書原案）

(2) 奨励賞における「若手」の年齢

(3) 推薦者を「他薦のみ」に改定

(4) その他（語句の修正等）

・功労賞の新設に伴う、第2条「賞」の表出順の入れかえ

・各賞で表現の異なる字句を統一

2.学会賞公募について

○ 募集要項の文言を一部修正するという事で承認した。

3) 年会について

○ 日本科学教育学会第39回年会（山形）タイムテーブルについて、理事会の時間を2時間確保すること、合同会議の開始時間を遅らせるとともに出席者に弁当を支給することなどの修正案が出され、承認した。

○ 支部長会議の時間枠を設定することが提案された。

○ 第40回年会を大分県ホルトホール大分にて2016年8月19日（金）～21日（日）に開催すること及び第41回年会を香川大学にて開催することを承認した。

○ その他：「年会企画委員会規程」について、修正案が提案された。

4) 広報・学会IT化

○ 代議員選挙および役員候補者選挙の電子投票システムの導入について提案され、承認した。

5) 今後の後援の在り方について

○ 今後の後援の在り方について提案があった。

6) 寄付金の予算項目化について

○ 新規予算項目として「寄付金」枠を設定することが承認された。

○ 学術著作権協会からの「著作権啓蒙のための寄附」について受け入れることが承認された。

5. 次回以降の理事会予定

・第265回：2015年3月14日（土）14:00～17:00 場所：コクヨ品川オフィス

・第266回：2015年6月20日（土）14:00～17:00 場所：コクヨ品川オフィス

・第267回：2015年8月21日（金）16:00～17:00 場所：山形大学

・第268回：2015年11月21日（土）14:00～17:00 場所：コクヨ品川オフィス

第 39 回年会 開催案内（第 4 次）

1. 年会テーマ：学びの原点への回帰 ―新時代に対応した科学教育研究―

2. 日程：2015 年 8 月 21 日（金）～23 日（日）（3 日間）

※プログラム編成の関係で、若干時間の変更になる場合があります。

※レター発行後も年会 Web サイトを更新しますので、最新情報をご確認下さい。

	8月21日(金)＜第1日目＞		8月22日(土)＜第2日目＞		8月23日(日)＜第3日目＞	
時間						
8:30-9:00			受付		受付	
9:00-9:30			課題研究 発表 (2時間) (9:30-11:30)		課題研究 発表 (2時間) (9:00-11:00)	一般研究 発表 (2時間) (9:00-11:00)
9:30-10:00						
10:00-10:30			昼食 (1時間) (11:30-12:30)		招待講演 「科学教育研究セミナー」(45分) (11:10-11:55)	
10:30-11:00						
11:00-11:30			一般研究 発表 (1時間40分) (12:30-14:10)		昼食 (1時間) (12:00-13:00)	国際交流委員会企画 (ランチョンミーティン グ)(1時間)
11:30-12:00						
12:00-12:30			総会(代議員総会)・表彰 (1時間30分) (14:20-15:50)		インタラクティブ・ セッション (2時間) (13:00-15:00)	一般研究 発表 (2時間) (13:00-15:00)
12:30-13:00						
13:00-13:30			各種委員会(1時間) (15:00-16:00)		休憩(15分)	
13:30-14:00						
14:00-14:30			理事会 (2時間) (16:00-18:00)		課題研究 発表 (2時間) (15:15-17:15)	一般研究 発表 (2時間) (15:15-17:15)
14:30-15:00						
15:00-15:30			若手ワークショップ (2時間30分) (16:00-18:30)		年会実行委員会・年会企画委員会合 同会議(1時間) (17:30-18:30)	
15:30-16:00						
16:00-16:30			全体シンポジウム (2時間30分) (16:00-18:30)			
16:30-17:00						
17:00-17:30			移動(30分)			
17:30-18:00						
18:00-18:30			若手の会懇親会(2 時間) (19:00-21:00)			
18:30-19:00						
19:00-19:30	顧問・理事・支部長・ 代議員合同会議 (2時間) (18:00-20:00)		懇親会 (2時間) (19:00-21:00)			
19:30-20:00						
20:00-20:30						
20:30-21:00						

3. 会場：山形大学（小白川キャンパス）
（〒990-8560 山形県山形市小白川町 1-4-12）
<http://www.yamagata-u.ac.jp/index-j.html>

4. 主催：日本科学教育学会（後援：未定）

5. 年会実行委員会：[実行委員長] 今村哲史
[実行委員] 市川 啓、鈴木宏昭

6. 連絡先：日本科学教育学会第 39 回年会実行委員会
〒990-8560 山形県山形市小白川町 1-4-12
山形大学地域教育文化学部 今村哲史

7. 内容：次の内容を予定

(1) シンポジウム

テーマ：「イノベティブ人材育成を実現する科学教育」

<趣旨>

本シンポジウムは、過去 2 回の年会から継続するテーマに関連して行われます。第 37 回年会では、イノベティブ人材の育成を考える上での基調講演を、イノベティブな研究をされてきた中辻先生にいただきました。第 38 回年会では、産業界から、イノベティブ人材育成のための科学教育についての課題や期待をお話いただきました。第 39 回年会で実施する本シンポジウムは、イノベティブ人材育成のための科学教育の第 3 弾（最終）として、科学教育の専門家から、ご自身の研究の成果を踏まえながら、イノベティブ人材育成を実現する科学教育について提案をしていただくものです。イノベティブ人材育成のための科学教育の動向、我が国における取組の現状や成果、今後に向けての課題について、それぞれご提案をいただき、学会として今後どのようなことをしていく必要があるかを含めて、議論します。

<メンバー>

- ・コーディネータ：銀島 文（国立教育政策研究所）
- ・登壇者：磯崎哲夫（広島大学）、熊倉啓之（静岡大学）、隅田 学（愛媛大学）
- ・指定討論者：木村捨雄（鳴門教育大学名誉教授）

(2) 招待講演「科学教育セミナー」

平成 26 年度学会賞「論文賞」受賞、新田英雄先生（東京学芸大学）。

受賞論文：ピア・インストラクションを導入した物理入門講義の実践と分析

(3) 課題研究発表

(4) 一般研究発表

(5) インタラクティブセッション

例年通り、ポスター発表もしくは実演紹介の形態で、研究内容についてインタラクティブにじっくりと語り合う場である。

(5) その他の企画：総会、懇親会、若手活性化委員会と連携した企画、各種会合など

8. 発表申込等について

(1) 課題研究発表の申込・原稿提出

特定のテーマについて徹底的に議論できる場とする。企画をお持ちの方は応募願いたい。

<スケジュール> (例年よりスケジュールが早まっておりますのでご注意ください。)

- ・企画受付締切：2015年4月26日(日)【オーガナイザー→年会企画委員会】
- ・受理審議：2015年4月27日(月)～4月30日(木)【年会企画委員会】
- ・審議結果報告：2015年5月1日(金)【年会企画委員会→オーガナイザー】
- ・原稿提出期間：2015年5月18日(月)～6月15日(月)【オーガナイザー→アップロード】

※6月15日は、登壇者がオーガナイザーに提出する期限ではなく、オーガナイザーが登壇者全員の原稿をとりまとめて年会企画委員会に提出(Web ページからアップロード)する期限であるため、注意されたい。

<企画応募方法>

応募に当たっては課題研究申請用紙及び理由書を課題研究の Web ページからダウンロードして、必要事項を記入の上、電子メールにて送信すること。

<企画応募先>

jsse-kadai [at mark] freeml.com

<応募に当たっての留意事項>

- ・オーガナイザー資格：会員でなければならない。
- ・登壇者：登壇者を企画受付締切までに確定すること。課題研究発表での登壇は1回とし、登壇者の重複はできない。登壇を依頼される場合には、当該登壇者が他の課題研究発表と重複ができない点を周知・確認した上で確定してほしい。なお、登壇者とは別に指定討論者を立てる場合には、申請用紙に記入すること。指定討論者については、重複を認める。
- ・登壇者資格：登壇者は会員、非会員を問わない。ただし、非会員による発表件数は、原則として当該課題研究における全発表件数の半数を超えないものとする。やむを得ずに半数を超える場合は、企画受付締切までにその理由を申請用紙に添えて申し込むこととする。非会員の発表件数が全発表件数の半数を超えた場合で理由書の添付されていない企画は受理されない。非会員の発表件数が当該課題研究における全発表件数の半数を超えている企画について受理するかどうかは、年会企画委員会で審議する。なお、受理された企画であっても、受理後に登壇者の変更がなされ、非会員による発表件数が当該課題研究における全発表件数の半数を超えた場合、受理が取り消される場合もあるので、留意願いたい。

(2) 一般研究発表・インタラクティブセッションの申込・原稿提出

<申込及び原稿提出の期間>

2015年5月18日(月)～6月15日(月)

※申込と原稿提出を同時に行うこと。

※期日等に変更が生じた場合は、学会 Web や科学教育研究レターなどで通知する。

<申込及び原稿提出方法>

申込者が直接、申込用の Web ページからアップロードすること。

詳細は、「日本科学教育学会 年会論文集 執筆要領」に従うこと。

<資格・登壇可能件数>

登壇者は会員でなければならない。

登壇者として申込可能な一般研究発表・インタラクティブセッションの件数は、各1件である。なお、一般研究発表・インタラクティブセッションの登壇者は、課題研究、その他の企画にも登壇することができる。

<発表時間>

一般研究発表の持ち時間は20分（発表15分、質疑・討論5分）である。インタラクティブセッションは2時間の発表時間を設定する予定である。

※本欄における「会員」とは、学会事務局が入会申込書の受付を済ませていることを意味する。ただし、各種発表の申込締切日と年会開催日程が学会の事業年度（毎年7月1日から翌年6月30日）をまたぐため、入会申込書の受付を済ませた者の入会時期（入会手続きの完了時期）については、各種発表の申込締切日の年度ではなく、年会が開催される新年度からの入会でも可とする。

9. 若手の会懇親会

若手活性化委員会主催にて、年会企画委員会とタイアップして、年会初日21日の19:00～21:00に若手ワークショップと懇親会（旧若手の会）を行う。詳細は現在、検討中である。

10. 懇親会

懇親会は原則として、年会 Web サイトからの事前申込みです。余裕がある場合には、当日申込みも受け付けますが、定員になり次第、締め切らせていただきますことをご了承下さい。

- ・日時：8月22日（土）19:00～21:00
- ・会場：ホテルキャッスル

〒990-0031 山形県山形市十日町 4-2-7 Tel：023-631-3311(代表)

URL：<http://www.hotelcastle.co.jp/>

- ・懇親会費：以下の表をご参照下さい。
- ・申込先：参加申込みとあわせて、年会 Web サイトの参加申込み用リンクからお申し込み下さい。
- ・払込方法：参加費と合わせて送金して下さい。

※大学名・会社名で送金される場合は、個人が特定されませんので、年会実行委員会までご一報ください。

1.1. 参加費及び懇親会費

参加費及び懇親会費等は、以下の表の通りです。

	種別	7月17日までに払込	当日
参加費（※1）	一般会員	¥5,000	¥6,000
	学生会員	¥3,000	¥4,000
	一般非会員	¥7,000	¥8,000
	学生非会員	¥5,000	¥6,000
年会論文集・ 追加購入費（※2）	種別関係なく	¥2,500	¥2,500
懇親会費	一般会員	¥6,000	¥7,000
	学生会員	¥4,000	¥6,000
	一般非会員	¥7,000	¥7,000
	学生非会員	¥6,000	¥6,000

※1：参加費には、年会論文要旨集（冊子体）1冊、年会論文集（USBメモリ）1個が含まれています。

※2：追加購入費には年会論文集（USBメモリ）1個が含まれています。ただし、年会論文要旨集（冊子体）は含まれていません。

教科「理科」関連学会協議会（CSERS）第20回シンポジウムのお知らせ

*日時・会場：2015年5月16日(土) 13:00～ 化学会館ホール

*テーマ：小・中学校間での系統性を重視した連携を考える

*プログラム

基調講演

講演者 清原洋一氏（文部科学省初等中等教育局主任視学官）

シンポジウム

シンポジスト

小学校関係者：未定（小中連携の実践者）

中学校関係者：山口晃弘氏（品川区立小中一貫校八潮学園校長）

教育学研究者：隅田 学氏（愛媛大学教育学部准教授）

CSERS 議長経験者：伊藤卓氏(第5代議長)

<趣旨>

現行教育課程では、学習指導要領解説理科編に内容構成の図が記載されており、多くの先生方から評価する声があがっている。また、小・中学校の各段階で主として育成すべき問題解決能力については、今回小学校第6学年で「多面的な見方」が「推論」に改訂され、中学校では小学校からつながる形で「分析・解釈」が新たに示されるようになった。一方、小・中学校間では各地で連携が図られるようになり、相互に授業を見学したり、互いの児童生徒を相手に支援したりする活動が行われている。

そういった中で、小学校からは「中学校の授業に子どもの考えが反映されていない」、「小学校で培ってきた考え方が生かされていない」など、中学校から小学校の授業に対しては「何を教えようとしているのかははっきりしない」、「仮説や考察は予想やまとめに過ぎないのではないか」といった意見を耳にすることがある。今回のシンポジウムでは、小・中学校の連携が重視されるようになった理由を基礎に、小・中学校それぞれの授業に対する考えを出し合い、どうしたら充実した連携となり、系統性がより一層担保されるかを、次期教育課程も念頭に置き、建設的に考えていきたい。

（調査研究・学術交流担当理事 荻原、清水）

2014 年度研究会開催のお知らせ

2014 年度研究会の開催に関しては、下記の通りです。なお、案内及びプログラムなどの詳細については、学会ホームページに順次掲載するので、ご覧ください。なお、研究会での発表資格を持つのは本学会正会員および学生会員です。単名または連名発表者に 1 名以上の会員を含む必要がありますのでご注意ください。

(1) 2014 年度第 6 回日本科学教育学会研究会（四国支部開催）

[テーマ] 自立的な学びを支える科学教育／一般

[日 時] 2015 年 5 月 9 日（土）10:00～16:30 予定

[主 催] 一般社団法人日本科学教育学会

[日 時] 2015 年 5 月 9 日（土）

[会 場] 香川大学 幸町キャンパス 研究交流棟 5 階研究者交流スペース
〒760-8521 香川県高松市幸町 1 番 1 号

[対 象] 会員、教員、学生、社会人

[参 加] 発表の有無にかかわらず参加できます。参加費は無料です。

会員でない方も参加いただけますが、発表は会員に限られます。

[発表申込] 発表者は本学会員のみであり、発表予定者が現在会員でない場合は、発表申し込み時に「入会申し込み」が完了していることが発表の条件になります。

単名または連名発表者に 1 名以上の会員を含むことが条件となります。

希望される方は、氏名、所属、発表題目、E-mail アドレス、電話番号、連絡先住所、使用機器を明記した E-mail を 企画編集委員：林 敏浩（香川大学）まで送ってください。

メール送付先：*hayashi [at mark] eng.kagawa-u.ac.jp* 林 敏浩（香川大学）

[発表申込] 2015 年 3 月 14 日（土）に締め切りました。

多数の方々の申し込みをお待ちしております。

日本科学教育学会 四国支部長 秋田美代（鳴門教育大学大学）

(2) 2014 年度第 7 回日本科学教育学会研究会（北関東支部開催）

[テーマ] 科学教育教員養成と理科・数学の授業

[主 催] 一般社団法人日本科学教育学会

[日 時] 2015 年 5 月 16 日（土） 10:00～17:00

（プログラムの詳細は後日決定します）

[会 場] 群馬大学 教育学部 C 棟 203、206 教室（群馬大学荒牧キャンパス）
〒371-8510 群馬県前橋市荒牧 4-2

[対 象] 会員、教員、学生、社会人

[参 加] 発表の有無にかかわらず参加できます。参加費は無料です。
会員でない方も参加いただけますが、発表は会員に限られます。

[担 当] 群馬県支部長 西谷 泉 (群馬大学)

[申込み・原稿送付先] 2014 年度第 7 回日本科学教育学会研究会・企画編集委員
masuda [at mark] gunma-u.ac.jp 益田裕充 (群馬大学)

[発表申込] 2015 年 3 月 20 日 (金) に締め切りました。

多数の方々の申込をお待ちしております。

日本科学教育学会 北関東支部長 人見久城 (宇都宮大学)

(3) 2014 年度第 8 回日本科学教育学会研究会 (中国支部開催)

[テーマ] より良い社会づくりに向けた科学教育の実践と研究

[主 催] 一般社団法人日本科学教育学会

[後 援] 鳥取県教育委員会 (予定)、鳥取市教育委員会 (予定)

[日 時] 2015 年 5 月 30 日 (土) 10:00~17:00

[会 場] 鳥取大学 鳥取キャンパス

〒680-8550 鳥取県鳥取市湖山町南 4 丁目 101

[参 加] 発表の有無にかかわらず参加できます。参加費は無料です。

会員でない方も参加いただけますが、発表は会員に限られます。

[発表申込] 発表は、単名または連名発表者に 1 名以上の会員を含むことが条件となります。希望される方は、氏名、所属、発表題目、E-mail アドレス、電話番号、連絡先住所、使用機器を明記した E-mail を 2014 年度第 8 回日本科学教育学会研究会・企画編集委員：前波晴彦 (鳥取大学) までお送りください。

maenami [at mark] cjrd.tottori-u.ac.jp 前波晴彦 (鳥取大学)

発表申込締切は、2015 年 5 月 1 日 (金) です。

[原稿提出] 発表原稿様式等については、発表申込があった方に E-mail にてお知らせいたします。

原稿提出締切は、2015 年 5 月 8 日 (金) です。

多数の方々の申込をお待ちしております。

日本科学教育学会 中国支部長 藤井浩樹 (岡山大学)

(4) 2014 年度第 9 回日本科学教育学会研究会 (東海支部開催)

[テーマ] 明日を目指した科学教育の課題と実践

[主 催] 一般社団法人日本科学教育学会

[日 時] 2015 年 6 月 27 日 (土) 10:00~17:00

[会 場] 愛知教育大学 演習棟 (自然科学棟 隣)

〒448-0001 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢 1

〒680-8550 鳥取県鳥取市湖山町南 4 丁目 101

[対 象] 会員、教員、学生、社会人

[参 加] 発表の有無にかかわらず参加できます。参加費は無料です。

会員でない方も参加いただけますが、発表は会員に限られます。

[発表申込] 発表者は本学会員のみであり、発表予定者が現在会員でない場合は、発表申し込み時に「入会申し込み」が完了していることが発表の条件になります。

発表は、単名または連名発表者に1名以上の会員を含むことが条件となります。希望される方は、氏名、所属、発表題目、E-mail アドレス、電話番号、連絡先住所、使用機器を明記した E-mail を 2014 年度第 9 回日本科学教育学会研究会・企画編集委員：飯島康之（愛知教育大学）までお送りください。

yijima [at mark] auecc.aichi-edu.ac.jp

発表申込締切は、2015 年 5 月 29 日（金）です。

[原稿提出] 発表原稿様式等については、発表申込があった方に E-mail にてお知らせいたします。

原稿提出締切は、2015 年 6 月 5 日（金）です。

多数の方々の申込をお待ちしております。

日本科学教育学会 東海支部長 村瀬康一郎（岐阜大学）

国際学会開催情報

今後、下記の4つの国際学会が開催予定である。詳細については、各ホームページをご参照いただきたい。

1) EASE (East-Asian Association for Science Education) Conference 2015

開催地：Beijing Normal University、Beijing

期間：2015年10月16日～18日

締切等：The deadline of abstract submission: May 1、2015

Early bird registration deadline: August 1、2015

Registration deadline: September 1、2015

<http://ease2015.csp.escience.cn/dct/page/1>

2) The 46th Annual ASERA (Australasian Science Education Research Association) Conference

開催地：The University of Western Australia、Perth

期間：2015年10月16日～18日

締切等：The deadline of all proposals: May 1、2015

Registration deadline: May 29、2015

<https://asera.org.au/2015-conference/>

(愛媛大学教育学部・隅田 学)

3) SITE (Society for Information Technology and Teacher Education) 2016

開催地：Savannah、GA、USA

期間：2016年3月21日～25日

締切等：2015年10月21日 (プロポーザル投稿締切)

2016年2月25日 (Early Bird 参加申込期限)

<http://site.aace.org/conf/>

4) ICCE2015 (The 23rd International Conference on Computers in Education)

テーマ：Transforming Education in the Big Data Era

開催地：Hangzhou、China

期間：2015年11月30日～12月4日

締切等：2015年5月12日 (プロポーザル投稿締切)

2015年8月4日(査読結果通知)

2015年8月20日(カメラレディ原稿締切)

<http://icce2015.zjut.edu.cn>

(専修大学ネットワーク情報学部・望月俊男)

国際学会参加報告(22)

—2015 NSTA (National Science Teachers Association) Global Conversations 参加報告—

ChicagoでMar. 12-15, 2015に実施されたNational Conferences on Science Educationのプレイベントとして3/11に実施されたGlobal Conversationsに参加してきました。

参加のきっかけは、ICASE (International Council of Associations for Science Education) 会長のTeresa Kennedy先生から、中山会長宛にJSSEからも誰かポスター発表しないかという誘いがあり、当初はシンガポールへ学生の引率が予定されていたのですが交代でき、急遽国際交流委員会を代表して学会の旅費で私が行かせてもらうことになりました。

なかなか登録手続がうまくいかずに、別のブラウザをインストールしてようやく登録できたのですが、他の方も相当苦労したようでした。

3/11はかなりハードな日程で、6:30に幕張メッセの2倍の規模のMcCormick Place集合して、チャーターバスで現地の中学校か高校訪問しました。私は中学校を訪問して2時間理科授業を参観しましたが、30名程度の中学生達が、10台程の既にセットしてある顕微鏡を使って細胞分裂の様子を観察し、観察結果をワークシートに記入していました。中学校の先生は参観された10名程の研究者からの質問に対応するのに忙しく、中学生達は個々のワークシートで観察結果をまとめ、全体でのまとめはありませんでした。2時間目も別のクラスで全く同じ授業でした。中学生達は全員iPadを持っていましたが、授業では使わず、先生も授業では使わせたくないようでした。もう一人、日本人の研究者が参加していましたが、その方は高校の授業を参観し、そちらではホワイトボードなどを使った協同学習が展開されたそうです。

さて、学校訪問から帰り13:00から慌ただしくGlobal Conversationsが始まりましたが、30分程の基調講演の後、10名程度で丸テーブルを囲んで、毎回メンバーを変えながら、講演のテーマについて各国の状況を20分程で話し合うことが繰り返されました。日本やフィンランドの教育には関心があるらしく、毎回意見を求められるので疲れましたが、実り多い話し合いが展開されました。このやり方は科学教育学会のセッションに取り入れてもよいと思いました。

そして、16:30ごろからようやくポスター発表が始まりました。実はポスター発表は初めての経験で、Japanese Lower Secondary Science Lessons after TIMSS 1999 Video Study というタイトルで一時間ポスターの前で説明をして、途切れなく質問が交わされ、ここでも日本の理科教育への関心の高さが伺えました。

NSTAには3/13まで参加できたので、残りの2日はPresentationやWorkshopを見て回りました。STEM関連のものが多く見られましたが、参加すると使った教材や抽選で関連商品がもらえるExhibition workshopが現場の教員に人気ようでした。

日本からはナリカのブースが出展され、地元の高校の先生と話す機会があり、皆日本の教材のクオリ

ティの高さは認めていましたが、価格面での折り合いがつかないそうでした。日本の理科教材を売り込むには、価格を下げて、**workshop**を展開して授業マニュアルも添付しないと難しいようです。

今回は、このような貴重な機会を与えて頂き、有り難うございました。改めて学会に感謝申し上げます。

(千葉大学教育学部・山下修一)

若手ワークショップ・懇親会 開催のお知らせ（39回年会 山形大）

39回年会に併せて、若手研究者の相互交流と研究支援を目的とした若手ワークショップおよび懇親会を開催します。自称若手の方を含めて、多くの方の参加をお待ちしておりますので、今からは是非、スケジュールに入れておいてください。

若手ワークショップ

日時 2015年8月21日 39回年会（山形）1日目 16:00～18:30

場所 山形大学（年会会場）

ワークショップ：「科学教育専門家として活動する人生」

<主旨>

科学教育分野の先輩達は、今社会の中でどのような活動をしているのか。様々な「科学教育の仕事」に従事する人々に来ていただき、仕事内容、面白さと苦悩、自分の後を追う後輩に対する助言等を本音で語っていただく。その後、参加者からの質問・相談を募り、それをネタにさらにひと語り。これをとおして、若手が科学教育研究の社会における拡がり把握することを支援し、今後のキャリア形成を助ける。以下の領域の方と現在交渉中。女性研究者は仕事の領域ではないが、若手の中には女性研究者も多いことから特にお願いして情報提供をしていただく。

- ・大学（科学教育を研究する／教師を育てる仕事）
- ・初等・中等学校（理科を教える仕事）
- ・企業（科学教育に関わる開発・営業の仕事）
- ・博物館（科学の面白さを伝える仕事）
- ・女性研究者

マッドネス：「年会で私はこんな発表をします」

2日目以降発表予定の内容について、1人30秒～1分程度の短い時間で紹介し合う。他の研究者に興味を持ってもらい、発表当日にも会場に足を運んで貰いましょう。

懇親会

日時 若手ワークショップ終了後 19:00～

場所 「いのこ家 山形田」（山形駅前）予定

☆詳しい情報は、今後、「若手活性化委員会広報用 Facebook」等をつかってお届けします。

(<https://www.facebook.com/jssewakate>)

若手活性化委員会広報用 Facebook 運用開始

若手活性化委員会の活動についての広くより知っていただくため、また、関連分野に関する情報提供、若手研究者間の交流促進のため、日本科学教育学会若手活性化委員会 Facebook ページの運用を開始しました。URL は、<https://www.facebook.com/jssewakate> です。ご覧ください。

このページに告知記事等を載せたい方は、原稿を添えて

幹事: 江草遼平宛 ([126d103d \[at mark\]stu.kobe-u.ac.jp](mailto:126d103d[at mark]stu.kobe-u.ac.jp)) にお申し込みください。委員会で審議の上、掲載させていただきます。よろしくお願いたします。

特集のお知らせ

編集委員会では、下記の主旨で、「科学教育研究」第40巻、第2号での特集を企画します。研究論文、総説・展望、資料、プラザ、全ての種別の原稿を募集いたします。ふるってご投稿のほどお願い申し上げます。

なお、投稿規定により、「科学教育研究」への投稿論文は、筆頭著者が日本科学教育学会の会員である必要がありますので、その点ご注意ください。

編集委員長 久保田善彦
特集編集部会長 山田篤史

特集名：「科学教育におけるモデリング研究とその連携」

数学教育では、従来より、数学的に仕上げられた問題を解くというプロセス以前の、例えば、現実事象から数学的な問題を設定したり、具体的な数学的モデルを構成したりするプロセスに注目が集められてきた。近年では、現実事象に対する数学的モデルの構成・使用・修正などを通じた広い意味での問題解決能力の育成が、「数学的モデリング」という研究分野で議論されるようになってきている。

一方、そうした数学的モデリング能力の育成は、数学教育という狭い分野だけで志向されるものではなく、例えば理科・技術・情報の教育など、広く科学教育一般で志向されているのは、よく知られているところである。しかし、科学教育諸分野におけるモデルに対する捉えは、純粋に「数学的」なものであるとも限らず、各分野で採用されるモデルとモデリングに対する視座は多様なものである、というのが現状であろう。

今回の特集では、上記のような問題意識を背景に、モデル及びモデリングという鍵概念は共通しつつも、科学教育におけるモデリング研究の動向やそうした研究の今後の連携の可能性を示唆する論文を募集したいと考え、上記のようなテーマを企画することにした。

今回の特集号では、科学教育における次のような領域の論文を募集する。

- (1) モデル及びモデリング研究の動向に関する研究
- (2) モデリングを媒介にした教科・分野間の連携・協働教育を志向した研究
- (3) モデリング能力の育成や評価に関する研究
- (4) モデリングに関わるカリキュラムや教科書を対象とした研究
- (5) その他

なお、特集編集部会が、上記趣旨に合わないと思われる論文につきましては、一般論文に回っていただくこともありますので、あらかじめご承知おきください。

特集編集部会の構成メンバー

部会長：山田篤史（愛知教育大学）

副部会長：内ノ倉真吾（鹿児島大学）

特集編集部会委員：青山和裕（愛知教育大学）、阿部好貴（新潟大学）、池田敏和（横浜国立大学）、島田 功（日本体育大学）、西村圭一（東京学芸大学）、古屋光一（北海道教育大学）、松浦拓也（広島大学）、森山 潤（兵庫教育大学）、渡辺雄貴（首都大学東京）など

事前申込：2015年8月31日

* 査読プロセスを円滑に進めるため、特集号はオンラインでの投稿前に「事前申込」を設けております。投稿を予定している方にはたいへんお手数ですが、著者名・所属、仮タイトル、論文種別、E-mailアドレス、電話番号、連絡先住所を *jsse-hen[at mark]nacos.com* までお送りください。事前申込をされないで投稿を希望される場合は、その旨を上記まで投稿締め切り(9/30)までにご連絡ください。

投稿受付開始：2015年5月1日

投稿締め切り：2015年9月30日

* 特集号に投稿する場合は、投稿システムの1ページ目にある【概要】の第一行目に、以下の一文を加えてください。「本論文は特集（科学教育におけるモデリング）への投稿である。」

発刊予定：2016年6月

2014年度第2回編集理事会報告

2015年3月14日（土）10:50～13:30、2014年度第2回編集理事会がコクヨ品川オフィス1階において開催された。

まず、「科学教育研究」の編集状況の報告が行われた。（2015.2.1～2015.2.28）：5編（内訳：和文5編、英文0編）、査読中論文（2015.2.28現在）：29編（内訳：担当編集委員選定中：4編、査読中（1回目）：6編、総合判定中（第1回目）：1編、改訂稿待ち：9編、査読中（2回目）：6編、総合判定中（第2回目）：1編、編集委員長最終判定中：2編）、掲載決定論文（2015.2.1～2015.2.28現在）：2編（内訳：研究論文2編（通算合計39-2：4編））。

次に、特集編集副部会長から、第39巻特集「科学・技術（Science and Technology）」について、査読状況等について説明があった。他には、担当編集委員依頼・確認方法等の改訂・再査読の方法、論文執筆要綱の見直し等について協議した。また、第40巻第2号の特集「科学教育におけるモデリング研究とその連携」について、趣旨と特集編集部会の構成メンバーについて協議した。

次回、2014年度第3回編集理事会は、2015年6月20日（土）、11:00～14:00、場所はコクヨ品川オフィスを予定している。

科学教育研究」投稿状況および掲載決定状況

(平成27年2月28日 現在)

	新規投稿論文数 (編)		審査中 (編)		掲載決定論文数 (掲載号)		招待論文数 (掲載号)		掲載不可論文数	
	和 文	英 文	和 文	英 文	和 文	英 文	和 文	英 文	掲載不 可	辞退
2014年 3月	4	0	24	1	4 (38-2) 0 (38-3)	0 (38-2) 0 (38-3)	0		3	0
2014年 4月	4	0	19	1	3 (38-2) 0 (38-3)	0 (38-2) 0 (38-3)	1 (38-2) 0		4	2
2014年 5月	5	0	16	0	3 (38-3) 0 (38-4)	0 (38-3) 0 (38-4)	0		5	1
2014年 6月	7	2	18	2	1 (38-3) 0 (38-4)	0 (38-3) 0 (38-4)	0		4	0
2014年 7月	3	0	19	2	1 (38-3) 0 (38-4)	0 (38-3) 0 (38-4)	0		1	0
2014年 8月	3	0	17	1	1 (38-4) 0 (39-1)	0 (38-4) 0 (39-1)	0		5	0
2014年 9月	8	1	23	1	1 (38-4) 0 (39-1)	0 (38-4) 0 (39-1)	0		2	0
2014年 10月	22	2	41	3	1 (38-4) 0 (39-1)	0 (38-4) 0 (39-1)	0		3	0
2014年 11月	4	0	39	3	2 (38-4) 0 (39-1)	0 (38-4) 0 (39-1)	0		3	1
2014年 12月	4	0	26	2	4 (39-1) 1 (39-2)	0 (39-1) 0 (39-2)	0		9	1
2015年 1月	8	0	27	1	1 (39-1) 1 (39-2)	0 (39-1) 0 (39-2)	0		5	1
2015年 2月	5	0	28	1	2 (39-2) 0 (39-3)	0 (39-2) 0 (39-3)	2		2	0

招待論文については、新規投稿数、審査中論文数に加えておりません

広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第 222 号をお届けします。一般社団法人日本科学教育学会の広報活動についてお気づきの点などがございましたら、学会 Web サイトにある「お問い合わせ」(Web メール)をご利用のうえ、お知らせください。

担当理事：谷塚光典（信州大）	森田裕介（早稲田大）	
委員：渡邊慶子（滋賀大）	久保田善彦（宇都宮大）	鈴木 誠（北海道大）
荻原 彰（三重大）	清水美憲（筑波大）	望月俊男（専修大）
谷田親彦（広島大）	辻 宏子（明治学院大）	
幹 事：内ノ倉真吾（鹿児島大）	小松孝太郎（信州大）	

科学教育研究レター編集 日本科学教育学会広報委員会

一般社団法人日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

URL : <http://www.jsse.jp>

□ 事務局 中西印刷（株） 学会部 内

TEL : 075-415-3661 FAX : 075-415-3662

E-mail : [jsse\[at mark\]nacos.com](mailto:jsse[at mark]nacos.com)

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

□ 編集事務局（論文投稿・査読編集）

TEL : 075-415-3155 FAX : 075-417-2050

E-mail : [jsse-hen\[at mark\]nacos.com](mailto:jsse-hen[at mark]nacos.com)

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

郵便振替口座：00170-6-85183 日本科学教育学会

銀行口座：みずほ銀行 京都中央支店 普通 2269008 日本科学教育学会